

ヒメシジミ

支笏湖国有林「コンサ百年の森」での作業中、ちよろちよろと身近で飛び立ってくれるシジミチョウが気になっていました。シジミチョウの種類は多いのですが、この蝶はその中でも小さいと感じてはいました。先年「蝶トランプ」の原画を描いたときには大きい順に採用したので小さいシジミチョウは省かれました。少年時代の採集歴でも標本にするには展翅しにくいシジミチョウは採集対象にしませんでしたから、私にとっては未知の分野なの



です。デジカメでの画像をゲットしましたので、帰宅してから調べてみました。ヒメシジミの雄と同定します。和名にヒメがつけられているように命名者も小さいと認識したということです。雌は翅色がかなり違います。2015年7月8日9時13分と記録されました。



ヒメシジミは環境省によって準絶滅危惧種に指定されています。昔は里でも普通に見られたようですが、今は限られた山地でしか見られないとのこと。ただし、ここ支笏湖「コンサの森」ではこの日頻繁に見ることができ



ました。その点でも支笏湖の自然はまだまだ健全なようです。分布は北海道、本州では山地高原、地球的にはユーラシア大陸のヨーロッパから東アジアとかなり広範囲です。

食草はヨモギやイタドリなどなのでそこいらに豊富にあります。余程の気候変動でもない限り、絶滅はしないと思うのであります。

今回の作業は主力は草刈ですが、3人一組の2班は成長調査をやりました。特に直播した発芽状況の調査は写真のように地べたに這いつくばって1本1本数えます。詳細結果は後日報告されるでしょうが、ミズナラ、クリは良好、オニグルミはまずまず、トチノキは全滅で1本も発芽していませんでした。

2日がかりの草刈で計画した全部の仕事を無事に終わることができました。宿で出会ったバイカー一人旅の若者との交流で現場にまで引きずられて迷惑だったかもしれませんが、「プロ集団だ」と驚かされただけあって、刈払機班のレベルはプロ並みだと自讃いたしておきます。

